# 巡回セールスマン問題

#### 1776002 青木裕哉

#### 2017/11/20

### 1 課題1全探索

citys	range	time
5	2.364416	$0.000016000000000 \; \sec$
10	3.069126	$0.05755400000000 \; \sec$
11	2.994373	$0.67660700000000 \; \sec$
12	3.019338	$7.81969200000000 \; \sec$
13	3.281921	$99.89479900000001~{\rm sec}$

表1 全探索による回答と計算時間

## 2 課題2改善法

citys	true	improved
5	$0.000016000000000 \; \sec$	$0.01858900000000 \; \sec$
10	$0.05755400000000 \; \sec$	$0.020778000000000 \; \sec$
11	$0.67660700000000 \; \sec$	$0.027638000000000 \; \sec$
12	$7.819692000000000 \; \sec$	$0.03142700000000 \; \sec$
13	$99.89479900000001~{\rm sec}$	$0.03948900000000 \; \sec$

表 2 改善法と全探索における計算時間の比較

配布されていた全探索のコードは O(n!) ほどの計算量だった.改善法は完全にランダムのため計算量は一定でないが,局所解に収束しやすいため,非常に少ない計算量になった.今回のプログラムでは,解の精度向上のため,100000 回試行して改善されなかったという条件を計算の終了とした.そのため,計算量の理想値である  $O(n^2)$  ではなく,最大で  $O(100000+2\times n^2)$  程度の計算量となった.以下のプログラムでも同様の条件を計算の終了条件としている.

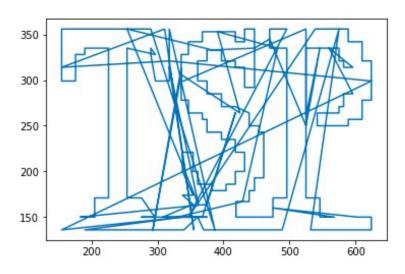


図 1 構築法による 225 都市の巡回セールスマン問題の解答

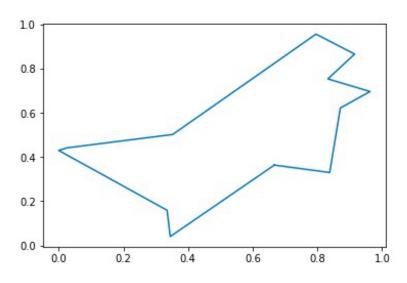


図 2 アニーリング法による 13 都市の巡回セールスマン問題の解答

## 3 課題3構築法

計算量は必ず  $O(n \times (n-1))$  となるが , 局所解に陥り安く , 精度は損なわれる . 具体的には図 1 の通りである .

## 4 課題4アニーリング法

今回のプログラムでは,温度パラメータは 0.5 に設定したただし,同様の温度パラメータの設定では,225 都市では厳密解にたどりつかないことが確認された.アニーリング法によって算出した解の図を図 2 ,図 3 にしめす.なお,図を生成する際のコードは https://github.com/aokiyuya/TSP\_report/ に公開した.

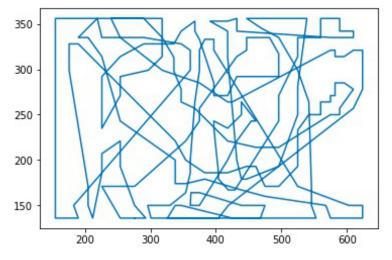


図 3 アニーリング法による 225 都市の巡回セールスマン問題の解答